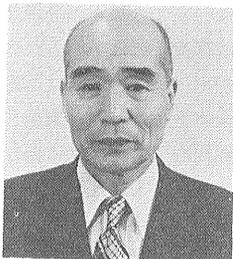


地質ニュースと共に30年 高橋 博 氏 退官される



高橋 博氏

昭和28年3月地質調査所の広報活動のひとつとして「地質ニュース」第1号が発行されました。その生みの親ともいべき高橋 博氏（業務課広報係長）が以来本誌発行に情熱をかけてこられました。昭和55年9月1日付にて退官されました。

氏は昭和22年5月 地質調査所（当時 商工省地下資源調査所）に入所され 27年4月 我が国産業復興の一助となす目的で地質ニュースの発刊の準備に当られ 28年3月第1号の発行を皮切りに28年8月広報係長となり以後27年間 本誌や単行本の編集 要覧 記録映画の製作等の広報活動に従事され 55年9月退官されるまで実

に313号の永きに渡り編集発行に全精力を傾けてこられました。今でこそ地質調査所の出版物の花形として 大学 研究機関 関連公共団体企業等のほか 辺地の教師に至るまで幅広い読者層を形成し ホットな内容は地球科学の分野に貴重な資料と情報を提供し続けています。しかしこの様な幅広い活動の裏には 氏の並々ならぬ努力があって今日の隆勢と発展につながったことと思います。毎号の原稿の確保も又大変で 研究者の中には本来の研究業務の多忙のためめくり期日に間に合わなかったり 又キャンセルも出たりして 穴埋には如何に苦勞されたか想像に難くありません。それらの困難にも途絶えることなく発行を続けてこられたのは 氏の強い使命感にもとづくものであります。東京の前庁舎の四階の片すみで数人の部下と もくもくと編集発行に励んで居られた姿を想うにつけ ここまで地質ニュースを引張ってこられた情熱は後をになう者の大きな教えになっています。これからもその伝統と意志をもとに より良いニュースの発行に務めて行きたいと思います。最後に改めて30年の永い間の御苦勞を読者と共に 感謝の意を表します (総務部業務課)

日本地下水学会

会合名：日本地下水学会昭和56年度秋季講演会・見学会

会 期：昭和56年10月22日・23日

開催地：茨城県 筑波研究学園都市内
(会場) 工業技術院筑波研究センター共用講堂

主 催：日本地下水学会

連絡先：〒305 茨城県筑波郡谷田部町東1丁目1—3

地質調査所水資源課内 同学会事務局

Tel. 0298—54—3687

新著紹介

SAITO T., THOMPSON, P. R., and BREGER, D., 1981, Systematic Index of Recent and Pleistocene Franktonic Foraminifera: 190 pp., 56 pls., University of Tokyo Press.

(東京大学出版会 5400円)

走査型電子顕微鏡活用以後の 世界の浮遊性有孔虫学界の指導的な立場にある齊藤常正博士（山形大学教授）の 現世および更新世の浮遊性有孔虫に関する 系統索引図説ともいべき上記の著書が出版された。本書の本文は 更新世以後の浮遊性有孔虫の同定にきわめて便利な 簡にして要を得た記載と美しい図版とからなっている。それに 序論においては 浮遊性有孔虫の殻表の超微細構造に基づく 大分類の発展の過程が順を追って説かれており 有名な LOEBLICH and TAPPAN (1964) 以後の進歩を知る上に便利であるばかりでなく これに続く「本ガイドの使い方」という章の基礎を与えている。

次が本書の中心をなしている「図版と記載」の章で 23頁～165頁にわたり 5科 19属に属する更新世以後の浮遊性有孔虫の全種の同定に必要な材料が網羅されている。次に 索引を兼ねた「シノプシスへの手引き」があり 最後の文献表をもって本書は終わっている。

更新世および現世とあっても その中にはそれ以前に出現した多数の種が含まれているから 本書は鮮新以前の浮遊性有孔虫の研究者・技術者にも大いに役立つ。とくに本書は最近の知識の上に立って これから浮遊性有孔虫を勉強しようとする者および浮遊性有孔虫を勉強し直そうとする者にとって これ以上を望み得ない参考書である。とにかく 日本の出版物として このような世界的な読者を得るであろう名著が出版されたことは喜ばしい。本書がまず広く日本の関係者に読まれることを希望する。
(福田 理)